

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2020. 12. 9 NO. 291

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話 080-5531-8236

区議会控室 3312-2111(内)2319 FAX 3312-2610



新型 コロナ対策

杉並区議会第4回定例会閉会

医療崩壊を防ぐための緊急補正予算を可決

区議会第4回定例会は、新型コロナウイルス感染症対応に関わる緊急補正予算審議のため会期延長し、12月9日(当初は12月4日)に閉会しました。

新型コロナウイルス入院病床使用率9割超えも 病院から支援要請

新型コロナウイルス感染症の第3波が襲来し、杉並区内でも新規感染者数は11月中旬から急激に増加しています(下グラフ)。

区内基幹4病院で確保している入院病床も使用率が9割を超える日もあり、予断を許さない状況です。さらに、基幹4病院の内一カ所ではクラスターも発生しており、医療機関への負担が激増しています。

11月25日には、基幹4病院から区に緊急の支援要請がありました。第3波に直面するなか、医療提供体制の維持と医療崩壊の阻止は喫緊の課題です。

要請を受け、1億8500万円余の補正予算を編成

杉並区は、緊急支援要請を受け、医療機関支援のための補正予算(1億8500万円余)を提案。区議会は会期延長し、審議を行ないました。補正予算で示された事業は、入院患者受入医療機関支援事業、PCR検査実施医療機関に対する休業期間経営継続支援事業です(下記)。

日本共産党区議団は、『医療崩壊の危機が進行し、政府の対策が機能していない状況下で、基礎自治体が医療機関支援に踏み出すことは重要』と意見を述べ、補正予算に賛成。賛成多数で可決されました。

補正予算で提案された事業の概要

■入院患者受入医療機関支援事業

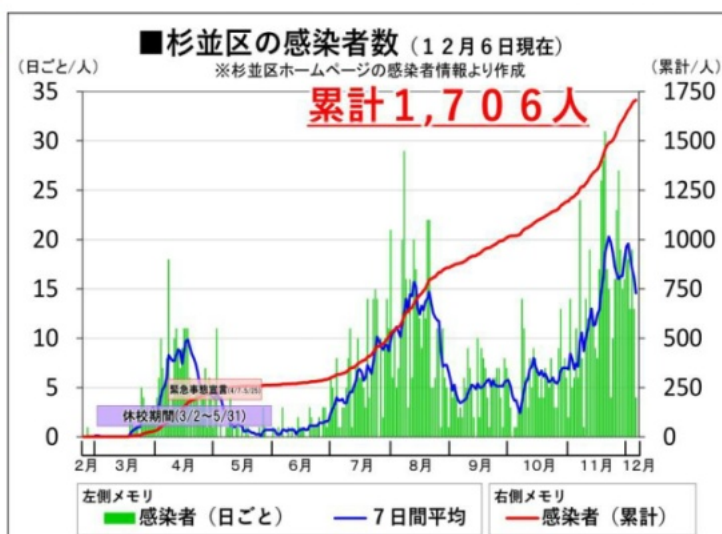
新型コロナウイルス感染症患者の受け入れにあたり、専用病床と医療従事者を確保し、院内感染対策や適正配置に必要な経費を助成。

補助対象	区内感染症診療医療機関(4基幹病院)
補助額	専用病床を利用した患者1人あたり10,000円を助成
予算額	1億5200万円

■医療機関に対する休業期間経営継続支援事業

PCR検査実施医療機関が従事者の感染等によって休業した場合、経営継続に必要な経費を助成。

補助対象	PCR検査や抗原検査を実施する区内医療機関(11月30日現在 病院9所、診療所54所)
補助額	診療所: 1日につき58,000円 病院: 1診療科1日につき182,000円
予算額	3,318万円



杉並区内でも新規感染者数が急速に拡大している。11月20日は、1日あたりの発生数として過去最高の31人となった。

自民、公明、立民、いのち平和などの賛成多数で 大宮・成田・永福南の3児童館が廃止に！

表1. 廃止された児童館と今後の廃止予定

廃止年度	No.	施設名	跡地利用
2016年度	1	和泉児童館	子ども子育てプラザ
2017年度	2	荻窪北児童館	税務署へ転用
2018年度	3	成田西児童館	子ども子育てプラザ
2019年度	4	下井草児童館	子ども子育てプラザ
	5	高円寺北児童館	保育施設へ転用
	6	東原児童館	地域コミュニティ施設
	7	堀ノ内南児童館	学童クラブ専用館
2020年度	8	浜田山児童館	学童クラブ専用館
	9	高円寺中央児童館	子ども子育てプラザ
	10	永福南児童館	学童クラブ専用館
	11	大宮児童館	大宮保育園を改築
2021年度以降廃止予定	12	成田児童館	保育施設へ転用
	13	西荻北児童館	検討中
	14	善福寺児童館	子ども子育てプラザ
	15	阿佐谷児童館	阿佐ヶ谷北東地域再開発

□：今定例会で廃止議案が可決された児童館
□：今後、廃止が予定されている児童館

杉並区は「区立施設再編整備計画」で児童館の全館廃止方針を示し、これまで9館の廃止を強行してきました。

第4回定例会では、大宮・成田・永福南の3つの児童館を廃止する議案が提案されました。

児童館の機能継承とは言えない 放課後等居場所事業

区は、児童館を廃止しても児童館機能は小学校内の放課後等居場所事業などで継承するとしています。しかし、杉並区の放課後等居場所事業は、施設面では、学校の体育館や図書室の使用は制約があり、児童館のように自由に使えません。運用面でも、事前登録が必要、おやつ無し、ビブス（ゼッケン）の着用、日曜日は使えないなど、児童館の機能継承とは到底言えないものです。

児童館は「児童館ガイドライン」で、『子どもが置かれている環境や状況に関わりなく、自由に来館して過ごすことができる児童福祉施設』『子どもが自らの意思でひとりでも利用することができる』と定められています。児童館で遊ぶことは子どもの権利であり、自治体には児童館設置の責務があります。

施設削減ありきで児童館廃止を進める杉並区の姿勢は問題

他自治体でも、児童館のあり方の検討が行われていますが、多くの自治体は児童館を維持・拡充すると結論を出しています。「できる限り学校生活から独立した放課後の居場所としての環境整備が必要」とする自治体もあります。

一方、杉並区は、児童館の役割等の検証も行わず、施設削減ありきで児童館の廃止を進めています。保健福祉委員会では、施設再編整備計画に示されていない西荻北・善福寺の2児童館の廃止方針まで示されました。

日本共産党区議団は、杉並区の児童館事業は他自治体と比較しても非常に優れたものであり、廃止計画は撤回すべきと反対しましたが、自民、公明、立憲民主、いのち平和などの賛成多数で可決されました。

■ 3つの児童館の廃止議案に対する各会派の態度

会派	自民	公明	共産	立民	平和	無維	共生	杉わ	正理	杉耕	無	美杉	革新
賛否	○	○	×	○	○	○	○	欠	○	×	○	○	欠

○は賛成、×は反対、欠は本会議欠席

PCR社会的検査「今後検討」と答弁

区内でも感染経路不明者が増加しており、今後、クラスター対策での感染制御が難しい状況となること懸念されます。PCR検査の頻度を増やす等の検査拡充、介護施設や障害者施設、保育園や幼稚園、小中学校などで働く人等を対象とした社会的検査の拡充が必要となっています。

区は、これまで社会的検査の効果を認めつつ消極的な姿勢でしたが、保健福祉員会の質疑で、保健福祉部長が答弁に立ち、エッセンシャルワーカー等の負担について触れ「国も変わってきており、その点も踏まえて今後検討していきたい」と示しました。